



## 扉

雑誌名	東西南北
巻	2010
ページ	161-161
発行年	2010-03-18
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1073/00001565/">http://id.nii.ac.jp/1073/00001565/</a>

# バローチスターン研究と ブラーフイ族の 神秘主義詩人をめぐって

バローチスターン交流の現在

村山和之

Taj Muhammad Tajal—The Mystical Poet of Brahui  
: Life and Achievement

Abdul Razzaq Sabir

2009年度は和光大学の研究プロジェクトによる  
パキスタン調査が始まって20周年を迎える年となった。  
パキスタンといっても、その研究対象の中心は  
モヘンジョダロでもガンダーラでもなく、  
パキスタン南西部に位置するバローチスターン州における宗教的図像という分野である。  
1989年9月に和光大学象徴図像研究会（代表：前田耕作）によって、  
バローチスターン調査の第一歩を踏み出した。  
そして1990年、1996年、1997年、1998年、1999年と計6回、  
正式な大学チームとして現地におもむき、調査・研究を行ってきた。  
1995年にはバローチスターンから研究者を二人お招きして本学でシンポジウムも開いた。  
これまでの交流の成果を再確認し、新たな共同研究の可能性を追求するためにも、  
再びバローチスターンに因んだ報告を行なってゆく必要性を感じている。  
今現在、治安が悪化しイスラーム原理主義グループと  
バローチ民族主義グループによる騒乱が報じられるバローチスターン地方について、  
独自の資料の蓄積と人材を有する機関が、  
日本では事実上和光大学だけであることの再自覚をも促したい。  
ここでは、バローチスターン研究センターのディレクターを務めておられた  
アブドゥル・ラザーク・サービル博士が寄稿して下さった研究論文  
“Taj Muhammad Tajal-The Mystical Poet of Brahui : Life and Achievement”  
（「タージ・ムハンマド・タージャル：ブラーフイ族の神秘主義詩人、その生涯と業績」）  
を村山和之による「バローチスターン交流の現在」を付して掲載する。  
19世紀を生きたブラーフイ族の詩人タージャルの世界を少しでも味わっていただきたい。